

北方四島交流等事業使用船舶 「えとぴりか」一般公開

【 実 施 報 告 書 】



令和4年9月

独立行政法人北方領土問題対策協会 交流担当

事業の概要について

目的

北方四島交流等事業使用船舶「えとぴりか」を広く一般に公開し、船内見学や船内での北方領土写真パネル展示を通じて北方四島交流等事業や北方領土問題に対する理解を深めるとともに、北方領土返還の気運醸成を図ることを目的として実施

実施日時

令和4年9月4日（日）

10：00～16：00（最終受付15：30）

実施場所

根室港琴平町岸壁

実施内容

- ・船舶は離岸せず、船内に順路を設定し停泊中の船内を見学
- ・船内の順路に北方領土問題に関するパネルを展示
- ・2階客室（203及び206号室）、2階男子浴室、4階病室を公開
- ・船内の順路の最終地点に署名コーナーを設置

※船内順路：タラップを使用し3階から乗船→受付→3階食堂兼集会室（パネル展示）→2階（パネル展示及び客室・浴室公開）→3階を通過し4階（病室公開）→3階（北方領土返還要求署名コーナー）→タラップから下船

※感染症対策として、見学者に対してタラップ下での検温、受付時の氏名等の記入、マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、船内順路の遵守を徹底

見学者数

110人

見学者条件なし（見学費用・事前登録なし）

一般公開実施時の様子①

感染症対策等



- 協会HPにて事前に周知したとおり、感染症対策として、見学者に対して乗船前にタラップ下で検温を実施しました。
- また、受付前においては、見学者に対して手指消毒の徹底を呼びかけ、参加者にご協力をいただきました。
- 併せて、船内各所への消毒液の設置、ペダル式ゴミ箱の設置、乗組員による順路内で不特定多数の方が触れる箇所の定期的な消毒作業など、感染予防の徹底に努めました。
- 食堂兼集会室は、熱中症対策として、参加者がウォーターサーバーを自由に利用いただけるようにし、一時的に休憩等を行うことが可能な環境を整えることで、見学者の健康面に十分な配慮をしました。

一般公開実施時の様子②

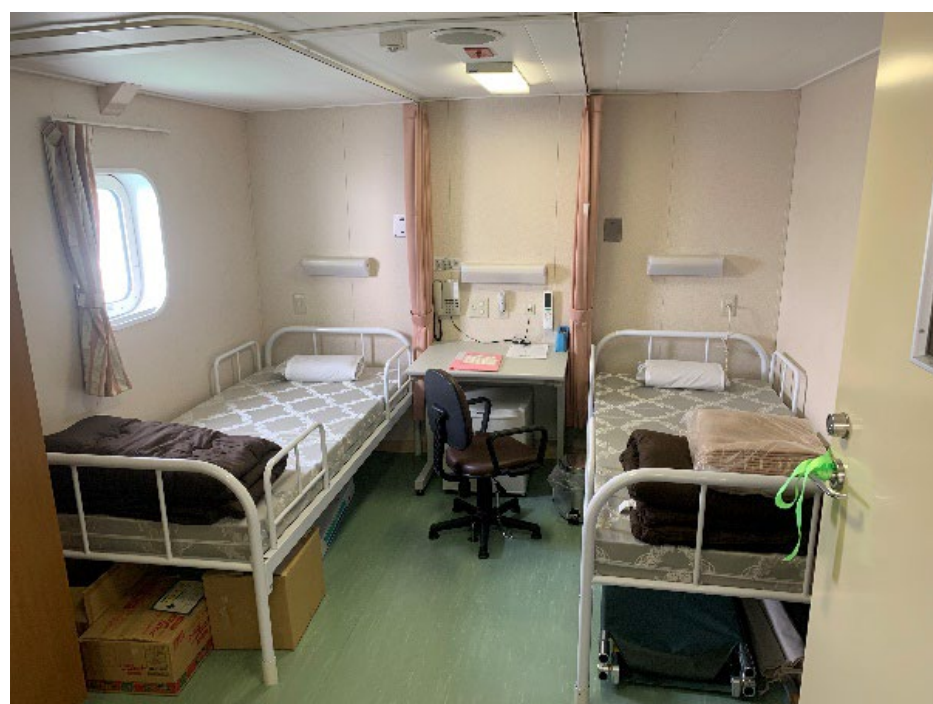
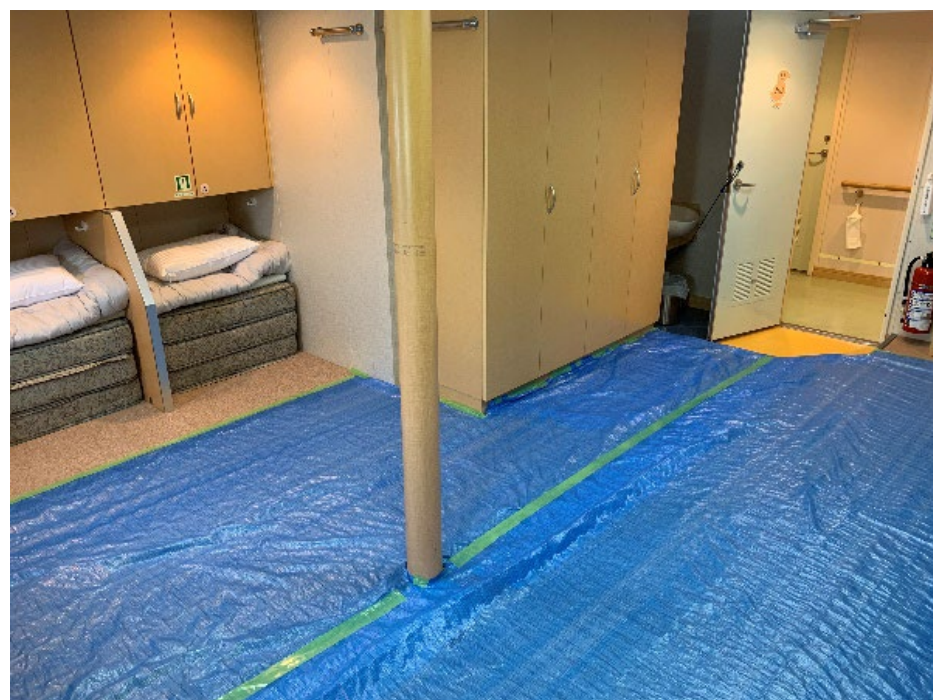
北方領土問題に関するパネル展示（2階及び3階）



■ パネルは、北方領土がどこに位置しているのかといった、「北方領土問題の基礎知識」をスタートとして、面積や距離、自然といった「北方領土がどんなところか」、北方領土の開拓などの「北方領土の歴史」、これまでの「外交交渉」、北方四島交流事業などの「北方領土の返還のための運動」の順に設置し、順路にしたがってパネルをご覧頂くことで、見学者の北方領土問題に関する知識が深まるように工夫をしました。

一般公開実施時の様子③

客室、浴室（２階）及び病室（４階）の公開

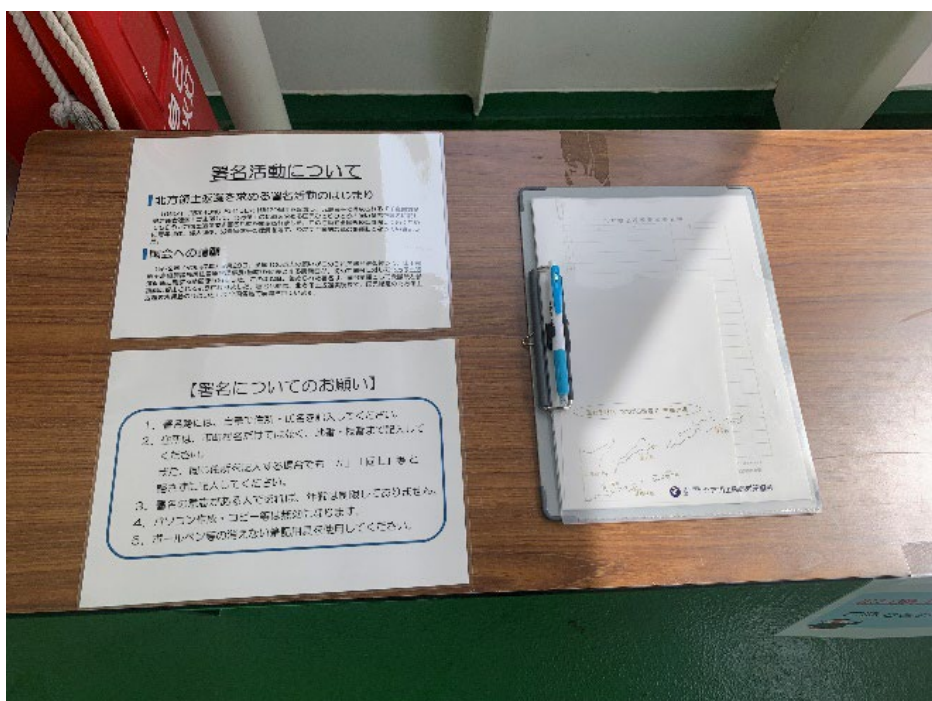
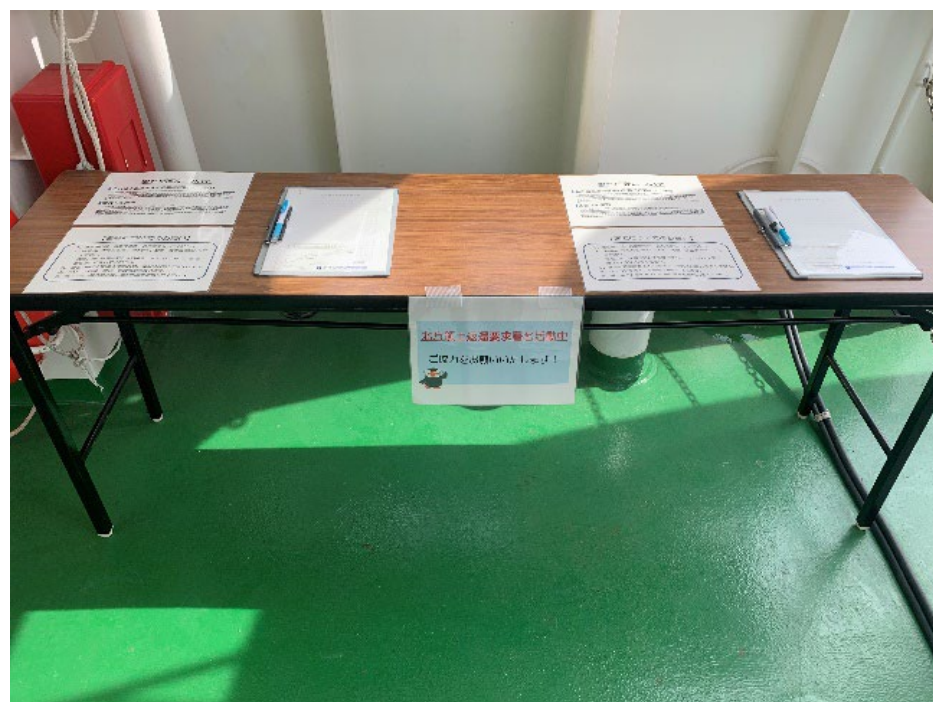


■ 2階にある客室のうち、4人部屋の206号室（写真上段）、8人部屋の203号室（写真中段）は、室内にブルーシートを敷き、部屋を隅々までご覧いただけるようにしました。浴室（写真下段左）についても更衣室まではブルーシートを敷き、浴室内の様子を間近でご覧いただけるようにしました。併せて4階の病室（写真下段右）も公開しました。

■ 以上のように、北方四島交流事業実施時における船内生活について、見学者が少しでも具体的なイメージを出来るよう工夫をしました。

一般公開実施時の様子④

署名コーナーの設置（3階）及び着ぐるみの活用



■「一般公開実施時の様子②」に記載したパネルを、順路に添って全てご覧いただいた後の最終地点に、北方領土返還要求署名コーナーを設置しました。（写真上段及び下段左）

■署名コーナーでは、署名のご協力の呼びかけを行い、見学者110人の内、47人の方にご協力いただくことができました。

■見学者の中には小さなお子さんもいることを想定し、お子さんに少しでも興味を持ってもらうため、北方領土のイメージキャラクターであるエリカちゃん、ボーイフレンドのエリオくんの着ぐるみを活用しました。（写真下段右）

■エリカちゃん、エリオくんは見学に来たお子さんと写真撮影を行ったり、根室港琴平町岸壁に釣りに来ている一般の方などへ積極的に声掛けを行い、一般公開を盛り上げ、集客にも貢献する役割を果たしました。

一般公開を終えて

■ 一般公開当日の9月4日（日）は爽やかな天候に恵まれ、受付開始10時直後から、高校生、小さいお子さんを連れた家族連れの方、年配のご夫婦の方、元島民の方など、様々な世代の方が次々と来場され、北方領土問題問題への関心の高さを強く感じました。

■ 受付開始約30分前から根室港琴平町岸壁を訪れ、1人目の見学者となった根室高校に通う学生の方は、「ビザなし交流で乗船して以来2度目で、すばらしい交流船をしっかりと撮影して、北方領土問題を多くの方に知ってもらいたい」と語っており、こういった若年層による発信から、北方領土問題に対する理解・関心が少しでも広がって欲しいと思います。

■ また、別の家族連れの見学者の男性は、「思っていた以上に施設が整っている。実際に乗ってみたい」と話されており、船内パネルの順序の工夫や、客室等の公開により船内生活を具体的にイメージできたことで、北方四島交流事業に対する興味を持っていただけたものと考えます。

■ この度の一般公開は、新型コロナウイルス感染症の感染者が増加傾向にある中で準備を進め実施に至りました。事業実施前は、「本当に事業を実施できるだろうか？」、「一体何人の方に見学に来てもらえるのだろうか？」といった不安が常にありました。そのような状況の中、出張者及び関係者の一致団結により、理解しやすいパネル展示、客室・浴室・病室の公開、現場でのスムーズな感染予防対応等ができ、結果として110名もの見学者が訪れ、本事業を「怪我無くトラブル無く」終えることができたことは大変有意義なものでした。

■ 本報告書作成時点においても、ロシアによるウクライナ侵略の影響等により、北方四島交流等事業の再開に向けた具体的展望は見通せない状況が続いておりますが、北方四島交流等事業の再開に向け、関係府省及び各実施団体とも緊密に連携しつつ、協会としてできることを積み重ねていきます。